はじめに

東京都は、「東京都平和の日条例」で、3月10日を「東京都平和の日」と定め、平和の意義を確認するとともに、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施しております。

平成２８年度は、3月10日、東京都庁において「第２７回東京都平和の日記念式典」を開催いたしました。

記念式典の冒頭に東京大空襲をはじめ戦災で亡くなられた方々を追悼し、世界平和の恒久を願って黙とうを行い、厳粛な雰囲気の中で式典が執り行われました。

式典に引き続き、東京都交響楽団による記念公演を行い、「追悼と平和への祈り」の気持ちを新たにしました。

また、記念行事の一環として、東京芸術劇場、福生市民会館・公民館及び東大和市役所において、「東京空襲資料展」を開催いたしました。

本報告書は、今回の東京都平和の日記念行事についてまとめたものであり、平和の大切さを確認していただくための一助となれば幸いです。

おわりに、東京都平和の日記念行事の実施にあたり、御協力をいただいた皆様に心から御礼を申し上げます。

平成２９年3月

東　京　都

目 次

はじめに …… 1

第一章／記念式典 …… 3

概要 …… 4

主催者挨拶　東京都知事　小池 百合子 …… 6

東京都議会議長　川井 しげお …… 7

来賓挨拶　在日外交団代表 …… 8
駐日ジブチ共和国特命全権大使
アホメド・アライタ・アリ閣下

東京空襲被災者代表　佐久間 国三郎 …… 10

式典風景 …… 11

記念公演 …… 13

第二章／普及啓発 …… 17

告知 …… 18

第三章／関連事業 …… 21

東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑 …… 22

「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」花壇デザイン画募集 …… 23

東京空襲資料展 …… 29

東京空襲資料展 チラシ …… 31

東京空襲資料展 展示品一覧 …… 33

東京空襲写真パネル展示 …… 37

第四章／資料 …… 39

アンケート用紙 …… 40

アンケート集計結果 …… 41

記念行事概要 …… 47

英語プログラム（Memorial Ceremony Program） …… 48

東京都平和の日条例 …… 49

東京都民平和アピール …… 50

第一章
記念式典

概 要

第27回東京都平和の日記念式典

日時　　平成29年3月10日(金)
午後2時～午後3時30分

場所　　東京都庁第一本庁舎 5階 大会議場

プログラム　午後1時00分　開場・受付
午後2時00分　記念式典
午後2時30分　休憩
午後2時45分　記念公演

※インターネット中継（Youtube東京都チャンネル)を実施

式次第

- **黙とう**
- **国歌斉唱**
- **主催者挨拶**
  - 東京都知事　小池 百合子
  - 東京都議会議長　川井 しげお
- **来賓挨拶**
  - 在日外交団代表　駐日ジブチ共和国特命全権大使 アホメド・アライタ・アリ閣下
  - 東京空襲被災者代表　佐久間 国三郎

式典風景

会場全景

黙とう

主催者挨拶

東京都知事
小池　百合子

本日ここに、御遺族の皆様、都民の皆様、在日外交団を始めとする御来賓の皆様をお迎えし、「東京都平和の日記念式典」を執り行うに当たり、御挨拶を申し上げます。

東京は、先の大戦で、百回を超える空襲を受け、多くの都民が犠牲になりました。

特に、昭和20年3月10日、下町地区を中心に襲った大空襲は、一夜にして10万人ともいわれる尊い命を奪い、多くの都民が家族と引き裂かれ、焼け出されました。

当時の悲惨な光景は、今なお被災した方々の心の中に重く刻み込まれ、辛い悲しみとして残っております。犠牲となられた方々の御無念と、御遺族の皆様の深い悲しみに思いを致しますと、痛惜の念を禁じ得ません。

東京都民を代表して、尊い命を奪われた御霊に謹んで哀悼の誠を捧げ、御遺族の皆様に心から追悼の意を表します。

今日、私たちが享受する平和と繁栄は、多くの都民の尊い犠牲と先人たちの懸命の努力の上に築かれたものであります。決してこれを忘れてはなりません。

戦争、空襲の記憶を絶対に風化させない。この強い思いを胸に、しっかりと後の世代に伝えていくことが、私たちの使命であります。

東京都では、戦争の惨禍を二度と繰り返さないことを固く誓い、3月10日を「東京都平和の日」と定め、この式典を始めとする記念行事を実施しております。

また、東京空襲の史実を次の世代に語り継ぎ、平和が永く続くことを強く願い、都立横網町公園内に「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」を建設しております。祈念碑内の「東京空襲犠牲者名簿」には、本年、新たに222名の方々を追加し、合計80,905のお名前が登載されています。

世界では未だ、地域紛争やテロが繰り返され、多くの人々が尊い命を失い、また、飢餓や貧困に苦しんでいます。

戦争の惨禍を経験した東京に住む、私たち都民にとって、世界の恒久平和の実現は切なる願いであります。

東京都は、平和国家日本の首都として、世界の諸都市との連携のもと、世界平和に貢献するとともに、平和な世界を次世代に引き継いでまいります。

3年後の2020年には、東京でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。私は、国境や民族を越えた平和の祭典でもあるこの大会を、都民の皆様とともに成功させ、誰もが安心して生き生きと暮らし、子や孫の世代までも発展を続ける東京の実現に向けて、しっかりと歩みを進めることをお誓い申し上げます。

結びに、犠牲となられた方々の御冥福と御遺族の皆様の御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げ、私の挨拶とさせて頂きます。

主催者挨拶

東京都議会議長
川井　しげお

本日ここに、ご遺族をはじめ、平和を願う都民の皆様とともに、第27回「東京都 平和の日」記念式典を執り行うに当たり、東京都議会を代表いたしまして、ご挨拶を申し上げます。

先の大戦が終わり、早や72年の歳月が過ぎ去ろうとしております。

国難に殉じ、国の内外において、多くのかけがえのない命が失われましたことは、私たちにとって、永遠に忘れることのできない深い悲しみであります。

米軍機による、初めての来襲は、昭和17年4月18日でありました。

以来、東京は度重なる空襲を受け、昭和20年3月10日の東京大空襲では、下町を中心とした地域が一夜にして焦土と化し、戦争と何ら関わりのない非戦闘員である都民が、数多く犠牲となりました。

犠牲者のご遺族皆様方のご心中を拝察する時、万感胸に迫るものがございます。

今日、私たちが享受する平和と繁栄は、こうした重く尊い犠牲の上に築かれてきたものであります。

私たちは改めて、過去における戦争の悲惨さを心に刻み、この記憶を風化させることなく、次世代に語り継ぐとともに、強い意思を持って、平和な社会の実現に、取り組まなければなりません。

しかしながら、世界では、未だ各地において、テロ行為が絶えないなど、平和を脅かす状況が今なお、続いております。

東京都議会といたしましては、戦争の惨禍を再び繰り返すことのないよう、平和を求める都民の願いを込め、すべての国々による核兵器等の廃絶を世界に訴えるなど、世界の恒久平和の実現に取り組んでまいりました。

これからも、すべての都民が安心し、真に豊かな生活を送ることの出来る平和な社会を構築することが、犠牲となられた方々に対する私たちの責務であることを深く胸に刻み、より一層の努力を傾注してまいる所存でございます。

結びに、戦災で犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、ご列席の皆様のご健勝・ご多幸を心から祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶

在日外交団代表
駐日ジブチ共和国特命全権大使
アホメド・アライタ・アリ閣下

小池百合子　東京都知事、
川井しげお　東京都議会議長、
東京空襲被災者代表　佐久間国三郎氏、
ご列席の各国大使各位、ご来賓の皆様、会場の皆様

この度は、一晩で約10万人の方が亡くなられた1945年3月10日の東京大空襲で犠牲となられた方々を追悼する、東京都平和の日記念式典に参列でき、誠に光栄でございます。特に都知事、この場所でご一緒でき、平和の意義や脆さについてお互いの考えを表現し、共有できることを光栄に思います。

1945年3月10日に東京で起こった出来事のような過去を思い出すということは、多くの方にとって心をかき乱されるような体験かもしれません。ただ、私たちは、亡くなられたたくさんの東京の市民たちが感じたであろう混乱や多大なる苦痛を思い出し、むしろ心で感じ取る必要があります。原爆よりも多くの即死者を出した首都東京の空襲や火災は、非戦闘員たちにとっての戦争の歴史において恐るべき顕著な出来事なのであります。

私たちが今日ここに立っていることには重要な意味があります。人間は平和なしでは生きることができないということを私たちは再確認したいのです。平和は恐れることなく生きる権利を与えてくれます。過去からの教訓は忘れられてはなりません。今日、世界のある大陸において、私たちは非常に多くの紛争に直面しています。残念ながら私たちは、衝突や殺し合いを選択することより平和を築くことのほうがはるかに難しいことを知らなければなりません。

ジブチ国民並びに平和と開発のためにどこまでも戦うことで知られている、イスマイル・オマール・ゲレ・ジブチ共和国大統領に代わりましてお話しさせていただきます。今年は我が国が独立して40周年に当たります。ジブチに駐留している日本の自衛隊による、地域の安全と「この地域において平和で安定した島」と呼ばれるようになった我が国ジブチへの貢献にお礼を述べたいと思います。

また、在日外交団の代表として、日本との共通の価値観に対する私たちの結束を表したいと思います。平和の構築は気高い目的であり、私たち万人が共有すべきものです。また、重要な人間の希求（望み）の一つは敬意と尊厳であるという私たちの信念を反映します。すべての人間の生命財産は神聖なものと考えられるべきです。

偉大なアメリカの作家バーナード・ショー氏によれば、あらゆる個人は平和をもたらす力を持っているが、そのためには社会的、国家的そして国際的な生活において、個人的な決意と責務を必要とすると言っております。また、先のインドの指導者であるガンジー氏も「あなたがこの世界でなりたいと思う変化になれ」と同様のメッセージを唱えています。

このような考え方において、平和への取り組みは私たち一人一人の個人的な決意であり責務になるべきです。私たちは過去の戦争や、恐怖、犠牲者のことを忘れてはなりません。これらの過去の出来事による悲しみや不安を、平和の構築のために個人的な決意と責務を形作るためのインスピレーションの源に変えましょう。

平和国家として日本は、平和の創設者になるという願いにおいて、世界中の国々からたくさんの尊敬や支持を得ています。より良い未来のために、今日こうして皆様方と集い、過去を思い出してしのぶことで、感謝の気持ちを表したいと思います。

来賓挨拶

Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of the Republic of Djibouti
H.E. Mr. Ahmed ARAÏTA ALI

Her Excellency Ms.Yuriko Koike, Governor of Tokyo
Honourable Shigeo Kawai, President of the Metropolitan Assembly of Tokyo
Mr.Kunisaburo Sakuma, Representative of Tokyo Air Raid Victim
Excellencies, Distinguished Guests
Ladies and Gentlemen

It is with great pride that I participate to this Commemoration of Tokyo Metropolitan Peace Day for the Victims of the March 10th, 1945's air raid that killed an estimated 100,000 people in a single night of fire. I am particularly honored, Madame Governor, to be standing here with you, to express and share our mutual views on the significance and the fragility of Peace.

To remember the past, like those events that occurred on March 10th, 1945 in Tokyo, this could be for many a disturbing experience. One must recall, even feel the disarray and the extreme distress felt by thousands of Tokyo residents dying. The Tokyo firebombing and the burning of the capital, which resulted in more immediate deaths than either of the nuclear bombings, stands as a horrifying landmark in the history of warfare on noncombatants.

There is a significant reason why we are standing here today. We wish to re-affirm that mankind cannot survive without peace. Peace gives us the right to live without fear. The lessons learned from the past ought to be remembered. In today's world, we are witnessing a great number of conflicts from every continent. Unfortunately, we have to know that peace is more difficult to build than opting for confrontation and killings.

I want my voice to speak on behalf of the people of Djibouti, and our President, His Excellency Mr. Ismail Omar Guelleh, who is a well-known and tireless fighter for Peace and Development. This year marks the 40th anniversary of the independence of my country. I want to thank and acknowledge the presence of Japanese Self Defense Forces in Djibouti, for their contribution to the security in the region and for my country, Djibouti being called « an island of peace and stability in the region ».

As the Acting Representative of the Diplomatic Corps in Japan, I wish to express, on behalf of all my colleagues, our solidarity for the common values that we share with Japan. Peace building is a noble cause and an objective that we should all embrace. It also reflects our belief that one of the important human needs is the desire for respect and dignity. The life and property of every human being must be considered sacred.

According to the great American writer, Bernard Shaw: "every individual has the power to bring peace to his land but this requires a personal commitment in social, national and international life. The former Indian leader Gandhi echoes a similar message: « Be the change you want in the world ».

In this perspective, striving for peace must become a personal commitment from each of us. We must not forget the events in the past, the war, its horrors and its victims. Let's transform the sadness and the uneasy feelings from these events of the past into a source of inspiration to shape even more our own personal commitment for peace building.

As a peaceful country, Japan has gained a lot of respect and support from many countries all over the world in its desire to become a world's peacemaker. One way to say 'thank you' is to be with you today, to remember the past, for a better future!

来賓挨拶

東京空襲被災者代表

佐久間　国三郎

「孫たちへの証言、東京空襲　新宿が地獄になった5月25日」

1945年（昭和20年）4月13日の空襲で淀橋地区柏木五丁目（現在の北新宿四丁目）淀橋市場一帯が焼野原になった。幸い我が家は柏木四丁目（現在の北新宿三丁目）だったので焼失をまぬがれた。今後空襲があったら淀橋市場に逃げると決めていた。家族は10人で、私は三男で１５才、戦闘機の部品を作る工場で少年工として働いていた。兄2人は陸軍と海軍に入隊しており、2人の弟妹は国民学校の3年生と1年生で、学童集団疎開で草津温泉に行っていたので、自宅では心臓を患っていた両親と妹2人と弟1人、それから私の6人暮らしであった。

5月25日朝8時30分頃、すでに「警戒警報」、「空襲警報」が発令されていた。家から外に出て空を見上げると、B29一機が1万メートル上空を4本の飛行機雲を引いて偵察にやってきて、悠々と去って行った。家の中に入り家族6人で話合った。「今晩は99パーセント空襲は間違いないと思う。夕食は早めに。」と、ちゃぶ台には茶碗が6個だけ、茶椀の底にはわずかなご飯粒の重湯なので箸はいらない。「兵隊さんいただきます。」と一気飲みすると、すぐに「ごちそうさまでした。」と食事を終えた。

午後11時30分頃空襲警報のサイレンが鳴り始めた。同時に、低く腹に響くB29の爆音が聞こえてきた。「ほら来た市場に逃げるぞ。」と叫び、家族一緒に弟を背負って市場を目指した。すでにB29の焼夷弾爆撃が始まっていた。焼夷弾には麻製の布がついていて、それに火がつき燃えながら、ガザガザと雨あられのように頭上に降ってくる。まるでメラメラと燃える火の玉が落ちてくるような光景であった。すでに大久保駅方面の空が明るくなり、バリバリと家が燃えながら火の手が迫ってくる恐怖と闘いながら、両親を引きずるように市場に向かったが、限界である。中央総武線の「鎧ガード」の高架下のどぶの中に家族6人がもぐりこんだ。ガード附近で焼夷弾の直撃を受け数人が亡くなっていた。頭上ではB29の爆撃音と高射砲音が響く。機関砲が「バンバン、ドンドン、ガンガン」と激しい銃声をあげる。高架線には電車が停車していて、電車と民家からの火の粉が雨あられとドブの蓋の隙間に落ちてきた。もう逃げ場がない。弟妹が「怖い怖い」「死ぬ死ぬ」と泣き叫ぶ。夢ではない、生き地獄だ。この悲惨な状況を忘れてはならないと心に誓った。ドブの中に煙が充満してきたので、市場に逃げ込んだ。見ると焼夷弾を投下していたB29が超低空で悠々と飛んでいて、銀色の大きな胴体に真紅の焔が反射してアメリカの星のマークとUSAの横文字がハッキリ見えた。市場は工事中で、穴が数か所あり、どこも人で溢れていたが、強引に入った。夜が明けて我が家に戻ったが、辺りを見渡すと、真っ平で何もない、360度の地平線だ。東側に高架線と新宿の二つのデパートの無残な残骸があり、西側に富士山が見えた。ほっとしたものの、その日は悲しくなって、富士山に向かって「戦争をやめてくれ」と叫んだ。

今年は戦後72年目に当たりますが、あのような悲惨な戦争を二度と繰り返してはいけない。決して忘れてはいけない。これからも平和の尊さと命の大切さを後世に伝えていく事が、私達戦争体験者の使命だと思っています。

式典風景

バス受付風景（横網町公園）

バス乗車風景（横網町公園）

会場受付風景

会場受付風景

東京都知事挨拶

式典風景

東京都議会議長挨拶

在日外交団代表挨拶

東京空襲被災者代表挨拶

会場風景

会場風景

「追悼と平和への祈り」
～東京都交響楽団メンバーによるアンサンブル～

日時　　平成29年3月10日（金）午後2時45分～午後3時30分

場所　　東京都庁第一本庁舎 5階 大会議場

演奏　　東京都交響楽団

公益財団法人 東京都交響楽団プロフィール

東京オリンピックの記念文化事業として1965年東京都が設立（略称：都響）。2015年に創立50周年を迎えた。

歴代音楽監督は森正、渡邉暁雄、若杉弘、ガリー・ベルティーニ。現在、大野和士が音楽監督、小泉和裕が終身名誉指揮者、エリアフ・インバルが桂冠指揮者、ヤクブ・フルシャが首席客演指揮者を務める。

定期演奏会などを中心に、小中学生への音楽鑑賞教室（50回以上／年）、青少年への音楽普及プログラム、多摩・島しょ地域での訪問演奏、ハンディキャップを持つ方のための「ふれあいコンサート」や福祉施設での出張演奏など、多彩な活動を展開。《首都東京の音楽大使》として、これまで欧米やアジアで公演を成功させ、国際的な評価を得ている。2015年11月にはベルリン、ウィーンなど5ヶ国6都市をめぐるヨーロッパ・ツアー（指揮／音楽監督・大野和士）を行い、各地で熱烈な喝采を浴びた。

受賞歴に、「京都音楽賞大賞」（第6回）、インバル指揮「ショスタコーヴィチ：交響曲第4番」でレコード・アカデミー賞〈交響曲部門〉（第50回）、「インバル＝都響 新・マーラー・ツィクルス」での〈特別部門：特別賞〉（第53回）など。

公式ウェブサイト　http://www.tmso.or.jp/

2017年3月現在

記念公演

プログラム

～戦争犠牲者のための追悼として～

◆ J. S. バッハ　：管弦楽組曲第３番 BWV.1068 より「アリア」

◆ ヘンデル　：オンブラ・マイ・フ

◆ J. シュトラウスⅡ：オペレッタ『こうもり』 より
アデーレのアリア「侯爵様、あなたのようなお方は」

～青少年とのジョイント～

◆ モーツァルト　：アイネ・クライネ・ナハトムジーク ト長調 K.525 第１楽章

◆ 桜井和寿　：NHK 連続テレビ小説「べっぴんさん」主題歌『ヒカリノアトリエ』

◆ 芥川也寸志　：弦楽のための三章―トリプティーク

～みんなで歌うコーナー～

◆ 高野辰之 作詞、岡野貞一 作曲 :『ふるさと』

◆ 江間章子 作詞、團伊玖磨 作曲 :『花の街』

記念公演

出演者

ソプラノ ： **今野 沙知恵**

1st. ヴァイオリン：**山本 友重**
渡邉 ゆづき
篠原 智子
横山 和加子
塩田 脩

2nd. ヴァイオリン：**双紙 正哉**
小林 久美
山本 翔平
海和 伸子
谷口 哲朗

ヴィオラ：**小林 明子**
小島 綾子
林 康夫
樋口 雅世

チェロ：**田中 雅弘**
松岡 陽平
高橋 純子

コントラバス：**髙橋 洋太**
冨永 八峰

ジョイント参加者：**河田 実聖**（中学１年生）
相良 響希（中学１年生）